

日本語を母語としない子どもたちとともに
JSL 日本語指導教育研究会通信

JSL (=Japanese as a second language)

令和2年12月 第3号

発行者 会長 熊本 修治

日本語指導教育研究会 事務局

第3回研修会 福岡市教育センター

全体研修1 福岡の国際化の現状について

- ・福岡市の国際化の現状について

講師福岡市総務企画局 国際政策課 中村聡様

福岡市国際政策課の政策をグローバルな視点からお話しいただきました。国内での都市間競争ではなく、アジアの中の都市として他国の都市との競争が起き、それぞれの都市がより魅力的な都市づくりのために努力していることがわかりました。その中で、日本の福岡市として充実した施策が行われていました。福岡市に転入してきた外国人に対して、ごみの出し方等の生活のルールや交通ルール、税金の支払い方法など必要な情報をまとめてパンフレットやリーフレット等を充実した政策が行われていました。また、コロナに関する相談に多言語で対応する等臨機応変に対応しています。外国人が日本人と快適な暮らしができるようにさまざまな工夫がされてありました。



○外国人が福岡に住むことの満足度が非常に高く、驚いた。国際政策課の方をはじめとし、福岡市の中のいろいろなところで努力されていることがわかった。

○福岡市に住む外国人の方のために、環境が丁寧に整備されていて、充実した生活をおくっていることがわかりました。

全体研修2 小中部会 話す力を伸ばす指導の工夫(小) 進路について(中)

- ・城浜小学校 早田浩二先生 下條道子先生
- ・城香中学校 日高美和先生 春吉中学校 薄里美先生

小学校部会では、話す力を伸ばす際に行っている指導の工夫や実践を発表しました。話しやすく自己開示できるような雰囲気をつくることの大切さを改めて感じました。また、話しかける際のことは、日本語と博多弁の接続、インフォメーションギャップや虚構を用いての学習、さまざまな教材を用いて、それぞれの学校で工夫された指導が行われていました。話す必要性のある状況をつくって、話させる工夫がとても参考になりました。また、中学部は、次年度入試の県立・市立の入学選抜要項についての確認を行い、特別措置等の最新情報を共有しました。



○先生方の指導の工夫や手作りの教材などを紹介していただき、とても参考になった。

できるものから取り入れていきたいと思う。

○会話のきっかけや内容など、いろいろな工夫を知ることができて良かった。

○高校の入試についてまた新たに知ることがあった。生徒の状況が一人一人違うので、確認することが毎年あるので、この機会は必要だと思う。